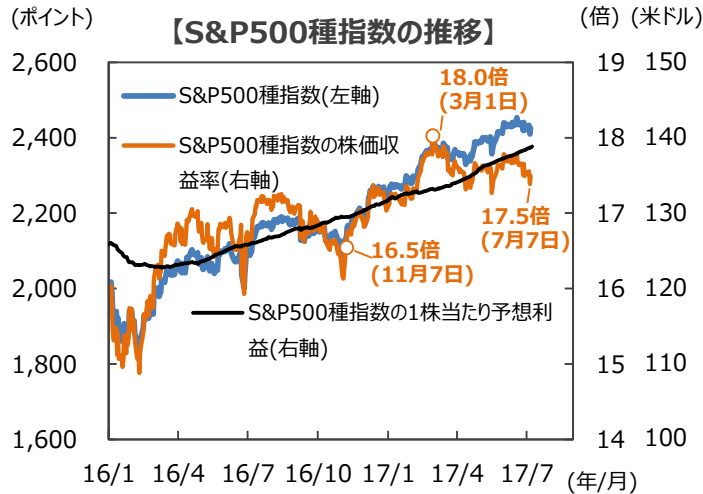


今日のトピック 米国株式市場の見通し

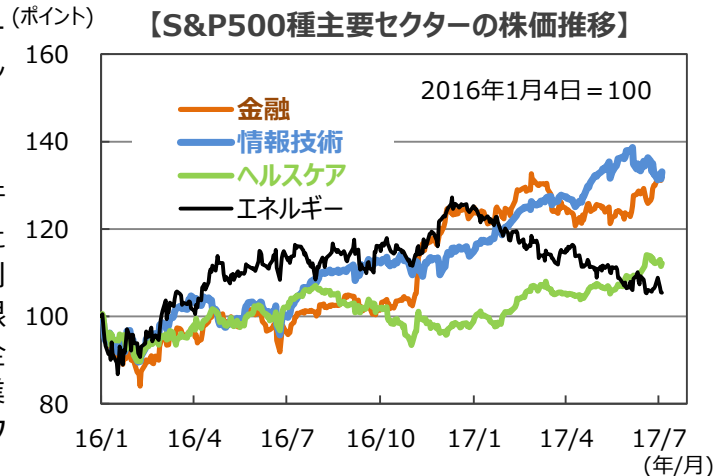
情報技術セクターの動向と今後の見通し

ポイント1 S&P500種指数は上値が重い
情報技術セクターが調整

- 6月の米国株式市場は、S&P500種指数やNYダウが前月末比でそれぞれ+0.5%、+1.6%と3か月連続でプラスでした。しかし、月の半ばから上値の重い展開となりました。一方、NASDAQ総合指数は同▲0.9%と8か月ぶりの下落となりました。
- S&P500種指数は6月19日に2,453.46と史上最高値を更新した後、上値の重い展開が続いています。株価収益率（株価÷1株当たり予想利益）も低下し、7月7日現在17.5倍となりました。
- S&P500種指数の主なセクターを見ると、17年に入ってからエネルギーセクターが原油価格の下落等の影響から低下基調が続いています。一方、時価総額で同指数の20%程度を占める情報技術セクターと15%程度を占める金融セクターがけん引役となって堅調に推移しています。今回足元で株価が小幅に調整していますが、これは情報技術セクターの調整が背景となっています。ここまで堅調に推移してきたことで利益確定売りが増加しました。
- 他方、金融セクターが足元堅調に推移しています。6月に欧州中央銀行（ECB）やイングランド銀行（BOE）の総裁が金融政策の正常化に言及したことで欧州債の利回りが上昇し、つれて米国債の利回りも上昇しました。こうした点に加え、米国では銀行が米連邦準備制度理事会（FRB）による健全性審査（ストレステスト）を無事通過したことで業績や財務面での安心感が広がったことも、金融セクターにプラスに作用していると見られます。



(注1) データは2016年1月4日～2017年7月7日。
(注2) 株価収益率は株価÷1株当たり予想利益。1株当たり予想利益は12か月先行（Bloomberg L.P. 予想）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データは2016年1月4日～2017年7月7日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

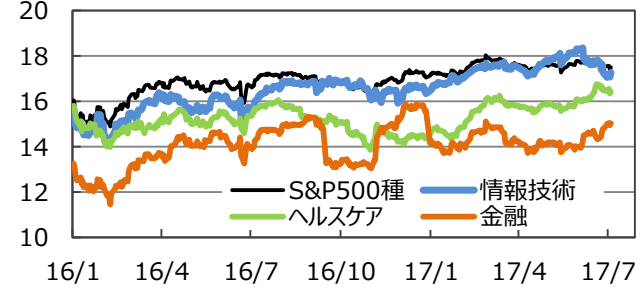
ポイント2 情報技術セクターの業績は好調

- 情報技術セクターの下落は、やや行き過ぎた株価水準の調整と考えられます。調整を経た7月7日の情報技術セクターの株価収益率は17.3倍とS&P500種を若干下回る水準まで低下しました。
- しかし、1株当たり予想利益は低下していません。情報技術セクターの予想増益率は堅調に推移しています。S&P500種の17年の増益率は前年比+10.9% (FactSet) と予想されていますが、情報技術セクターも同+11.0%と堅調です。企業業績の見通しが悪化しているわけではありません。
- 企業業績予想の改善度合いを見るリビジョン・インデックスは、足元で44ポイントと引き続き高水準で推移しています。

今後の展開 情報技術セクターの業績好調は長期化の可能性

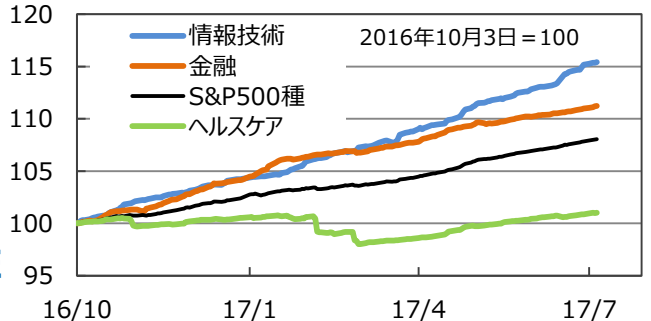
- 米国市場では、これから4-6月期の決算発表が始まりますが、情報技術セクターの決算に注目が集まりそうです。
- 情報技術セクターは、半導体の需要を背景としたサイクルにより業績と株価が左右されると考えられています。こうしたサイクルは主にスマートフォンやパソコン、テレビといった消費者向け製品によってもたらされます。今回のサイクルは、人工知能 (AI) やモノのインターネット (IoT) など企業の需要が新たに加わっていると見られ、従来のサイクルとは異なると考えられます。新分野への投資によって企業活動の効率化が進むと見られることから、サイクルが全体的により長期化することで、情報技術セクターの業績好調が続く可能性があります。

(倍) 【S&P500種及び主要セクターの株価収益率】



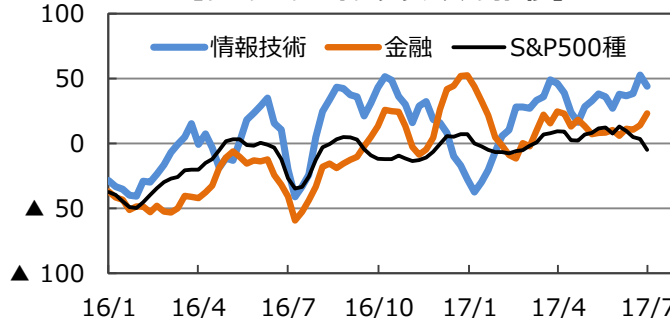
(注1) データは2016年1月4日~2017年7月7日。
 (注2) 株価収益率は株価÷1株当たり予想利益。1株当たり予想利益は12カ月先行(Bloomberg L.P.予想)。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(ポイント) 【1株当たり予想利益の推移】



(注1) データは2016年10月3日~2017年7月7日。
 (注2) 1株当たり予想利益は12カ月先行(Bloomberg L.P.予想)。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(ポイント) 【リビジョン・インデックスの推移】



(注1) データは2016年1月1日~2017年6月30日(週次ベース)。(年/月)
 (注2) リビジョン・インデックス：(増益企業数-減益企業数)÷企業数。4週間移動平均。
 (出所) Bloomberg L.p.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年6月30日 米国債券市場の動向 (2017年6月)
 2017年6月27日 米国経済と株式市場の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。